

研究・調査報告書

報告書番号	担当
340	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名（原題／訳）	
Socio-demographic and psychosocial factors are associated with features of the metabolic syndrome. The Women's Health in the Lund Area (WHLA) study. 社会人類学的、精神社会学的要因の代謝症候群との関連。ルンド地域における「女性の健康」研究より。	
執筆者	
Lidfeldt J, Nyberg P, Nerbarand C, Samsioe G, Schersten B, Agardh CD	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Diabetes, Obesity and Metabolism 2003;5:1463-1326.	
キーワード	
代謝症候群、社会人類学、精神的要因、女性の健康、アルコール	
要旨	
社会人類学的要因、精神社会学的要因、飲酒、喫煙、身体活動、食生活等の要因と代謝症候群との関連を断面調査で検討したもの。米国の共同研究である「女性の健康」研究の白人女性 50-59 歳 1 万人余を対象とした。	
代謝症候群の各要素のありなしは、非空腹血糖 8.0mmol/L、中性脂肪 2.3mmol/L、BMI 30 以上、腰臀部周囲比 0.9 以上、血圧 160/95mmHg 以上、糖尿病の家族歴についてであった。さらに、高血圧治療、高脂血症治療の有無であった。	
これらの、要因が一つ以上の有無を目的変数として、社会人類学的要因、精神社会学的要因、飲酒、喫煙、身体活動、食生活等の 6 要因を説明変数として重回帰分析を行った。その結果、高等教育および上から 2 番目の教育程度、低い身体的生活の質、強い主観的身体症状が正の関連を示した。一方、娯楽時の高い身体的活動、健康的食生活、少量から中等度の飲酒が負の関連を示した。	
循環器疾患危険因子や糖尿病の高リスクをもった中年期の女性を同定するには、生物学的な要因を検討するのみならず、社会人類学的、社会性精神学的な要因も考慮すべきとしている。	